

歴史を訪ねて…

笠岡市の文化財



白石島
(国指定名勝)

白石島の一部の区域は国の名勝に指定されています。島内には「鬼ヶ城」「ナベカロ」「大玉岩」など標高一〇〇メートルを越す峰があり、山頂まで遊歩道が整備されています。この道は、オリエンテーリングのコースとしても知られています。

頂上からの眺めは絶景です。島を見渡すと、白石の名にふさわしく、あちこちに白色の花崗岩が露出しています。その山肌と美しい海岸線との調和、波穏やかな瀬戸内の海の風景が心を癒してくれます。遠方に目を転じると、笠岡諸島はもとより、瀬戸内海の大小の島々、さらに水島灘から備後灘、条件の良い日には四国の連山と石鎚山、北には伯耆大山までも望むことができます。鬼ヶ城の山頂付近には国指定天然記念物「鐘岩」もあります。

島の北部に広がる平地は、江戸時代に福山藩によって干拓された土地であり、かつて水田として利用されたこともあります。港は古来、瀬戸内海沿岸航路の重要な寄港地であり、江戸時代には参勤交代をする諸国の大名も、潮待ちのため白石島の港を利用していました。

展覧会と行事のご案内

さまざまな清水比庵

会期中～7月16日(祝)
入館料：一般500円
(65歳以上の方は入館無料です。年齢を証明できるものを持ってきてください)
休館日：毎週月曜日

特別展

きたおおじろさんじん
北大路魯山人
世田谷美術館所蔵
塩田コレクション

7月21日(土)
～8月26日(日)

〒714-0087
笠岡市六番町1-17
☎63-3967
ホームページ
<http://www.city.kasaoka.okayama.jp/0013/0001.html>

「池の面にたつささやかな、波のうねりだとか、また、其水にうつる白雲の重なりとか、山の姿を倒影さしている池水の、色とりどりの変化とか、さういった景色は、いつかは絵にしてみたいと思い、心に投映されたまを、深い印象として、いつまでも残しているのである」(竹喬のこぼれ)

竹喬のこの言葉は、裏磐梯の五色沼を描いたスケッチよりも数年前にさかのぼる。昭和42年には「池」という作品を第10回新日展に出品しているのだが、池、あるいは水面への関心は長く心にあつたようだ。水面におこった波を介して、吹き渡る風が感じられる。



風の色沼

小野竹喬 作
昭和46(1971)年頃
26.0×36.3cm

竹喬美術館の光彩 55

今月の表紙

5月27日、毎年恒例となった「島の大運動会」が高島を舞台に開催されました。今年で10回目の節目を迎え、「高島遠足」と銘打った今回は島内外から千人が参加。5コースに分かれて島内散策や、クルージングなど島の魅力を満喫しました。

閉会式では十周年を記念し、参加者全員で「10」の人文字をつくり、来年の再会を誓っていました。

係から

三年間笠岡市を離れていましたが、記憶と違う風景を目にするのと軽い喪失感を感じます。現在の風景と記憶のそれとが置き換わるまで、その場で暫く動けなくなりました。その度に、日々まちは変化していると強く感じます。景色だけではなく、何事も変化しているのだということを意識し、従来の手法に囚われないようにしたいと思います。(良)



土屋武之 笠原良一

発行日／平成19年7月1日
発行／笠岡市役所
編集／企画政策課
〒714-8601 笠岡市中央町1-1
☎69-2110

印刷／(株)国輝堂 ☎67-5111



※この広報は再生紙を使用し地球環境にやさしい植物性大豆インキで印刷しています。



古紙配合率100%の再生紙を使用しています

笠岡市ホームページ：<http://www.city.kasaoka.okayama.jp>
メールアドレス：kouhou@city.kasaoka.okayama.jp